

~~~~~  
学 会 だ よ り  
~~~~~

☆名簿発行について

前回は昭和 49 年末現在の名簿を発行しましたが、その後入退会、住所変更などで大幅に内容が変ってきましたので今回昭和 51 年末現在の名簿を発行することになりました。今回は往復ハガキによる調査はせず、学会にある住所カードをもとに作成しますので、前回名簿以後、住所、所属、電話番号等の変更があった人でまだ学会に届けていない人は 12 月 20 日までに必ず御連絡下さるようお願い致します。

☆科学研究費補助金配分審査委員候補者

日本学術会議研究費委員会より標記の件について推薦の依頼がありましたので、本学会として評議員の書面投票により下記の方々を推薦しました。

第 1 段審査委員候補者：弓 滋，北村正利

文部省はこの推薦にもとづいて第 1 段審査委員 1 名を依嘱します。なお第 1 段審査委員には守山史生，加藤正二，第 2 段審査委員には海野和三郎の各氏が留任となっております。

☆訂正とお詫び

10月号 307 頁の秋季年会プログラム中、講演番号 44 番の発表者の中に河野宣之氏の名前が校正ミスのため落ちておりましたので次のように訂正すると共にお詫びいたします。

44. 高橋富士信，川尻轟大，尾嶋武之，河野宣之，吉野泰造(電波研鹿島)：太陽コロナ磁場によるかに星雲偏波のファラデー回転 (IV)

花山天文台の所在地の名称が変更：

10月 1 日より下記の通り変更になります。

〒 607 京都市山科区北花山高峰町  
京都大学・理学部  
花山天文台 Tele (075)-581-1235

~~~~~  
雑 報  
~~~~~

改暦記念日

11月 9 日が近づくと改暦記念日という言葉を目にす

る。記念日を設けて誰かが何かの行事を行っているのかどうかそれは私は知らない。が、新聞社などから問い合わせがあったり、当日記などの行事の欄に 11 月 9 日改暦記念日と書かれていたりするのは事実である。

明治 5 年 11 月 9 日に、12 月 3 日を以て明治 6 年 1 月 1 日とするという布告がでて太陽暦が施行されたことはご存じのとおりである。明治 5 年 11 月 9 日は太陽暦に直すと 1872 年 12 月 9 日で、日は同じで 1 ケ月ずれる。

ここでほかの例を考えて見よう。赤穂浪士の討入は元禄 15 年 12 月 14 日で太陽暦では 1703 年 1 月 30 日に当る。1 月 30 日では講談の「極月なかばの 14 日……」という調子と合わないで拒絶反応があるのであろう、12 月のうちにいろいろ行事を合わせているようである。しかし太陽暦の 12 月なかばに東京であの晩のように雪が積ることはない。旧暦の日付そのままにすると 3 月 3 日のように桃の咲かない桃の節句になるのと同じで季節とは合わなくなる。とかくの問題のある日を例にして恐縮であるが、2 月 11 日という祝日は日本書紀神武の巻で正月 1 日に即位したという記述をグレゴリオ暦に直したものであるし、時の記念日も天智天皇 10 年 4 月 25 日はじめて時を知らせたという記事をグレゴリオ暦にあてはめ 6 月 10 日と定めたものである。改暦記念日というのなら 12 月 9 日がしかるべしというゆえんである。

(内田正男)

◇ 11 月の天文暦 ◇

日 時	記	事
6 24	月	最遠
7 8	望	
16	立 冬	(太陽黄経 225°)
18	水 星	外合
15 8	下 弦	
18 17	木 星	衝
21 10	月	最近
22 0	朔	
13	大 雪	(太陽黄経 255°)
25 11	火 星	合
28 16	土 星	留
22	上 弦	

1976 年 8 月の太陽黒点 (g, f) (東京天文台)

1	1,	3	6	1,	16	11	2,	18	16	1,	10	21	2,	5	26	—,	—	
2	2,	5	7	—,	—	12	3,	17	17	1,	18	22	1,	4	27	1,	1	
3	—,	—	8	1,	8	13	3,	20	18	1,	36	23	1,	9	28	0,	0	
4	2,	5	9	3,	11	14	2,	7	19	2,	37	24	1,	5	29	1,	2	
5	1,	10	10	3,	17	15	—,	—	20	3,	23	25	—,	—	30	—,	—	
(相対数月平均値: 20.3)																31	—,	—

昭和 51 年 10 月 20 日	発 行 人	〒181 東京都三鷹市東京天文台内	社団法人 日本天文学会
印刷発行	印 刷 所	〒112 東京都文京区水道 2-7-5	啓文堂 松本印刷
定価 300 円	発 行 所	〒181 東京都三鷹市東京天文台内	社団法人 日本天文学会
		電話 武蔵野 31局 (0422-31) 1359	振替口座 東京 6-13595

# 11月の星座

野尻抱影

## 1. うお (PISCIS)

玉の如き小春日和を授かりぬ たけし

3日は明治人には昔なつかしい天長節、ほこほこの朔日のだが、釣瓶落しの日が暮れると10月につづく星月夜で、変わったのは天馬の大方形が西南に傾き、アンドロメダの星列が見よくなったことである。しかし、下旬にはスバルがぼうと昇って冬の開幕を告げる。

うお座は子午線経過 11月22日。大方形の東南でαアリシヤ (v8, 4等) から北へ走るこまかい星の列と、それより長く西へ走る列のはしに北魚と西魚がつながれていると見る。西魚は鮮かな亀甲形である。ここが黄道の双魚宮で、ひもで結ばれているのは謎だが、原型は古代バビロンの人魚と魚尾のツバメがリボンでつながれているものと考えられる。

星座としては覚束ないが、重要なのは西魚をつなぐリボンの真下に春分点が位置することである。天馬の大方形の東辺の南への延長はその長さ約15°でここに達する。英詩人チャョーサーの“junge sunne” (若き太陽) を迎える幻の点だが、逆に北へ30°でカシオペアのβを過ぎ、さらに30°で北極に達する幻の線はほぼ本初子午線と一致して、偶然以上のものを感じさせる。

## 2. アンドロメダ (ANDROMEDA)

子午線経過 11月27日 (天頂)、主星α(2等)は天馬の大方形の一角をなし、これが神話の王女の頭で、δ(3等)を経てβとγ(共に2等)が飛び飛びの一直線に列なるのが背から右腕を示し、左脚はβから上にわかれて膝を折っている。そして王女は両腕をひろげ、左手の先きはY字形の鎖で潮の花咲く大岩につながれている意匠である。星座の形が神話から案ぜられたか、それとも星の布置から来たかは時に問題となるが、鎖につながれた手だけを見ても、少なくともこの場合は星から構

想されたものと考えられる。

二十八宿では奎宿に当るが、主部は星雲のあたりからβをも加えて南へのびる多角形である。漢和字典には奎は形が屈曲して字画に似ているからだとなり、奎文ともいう。甚だシカツべらしいが、隋冊元子の歩天歌には「腰細ク頂尖リテ破鞋ノ如ク十六星鞋ヲ繞リテ生ズ」とあり、よく合点できる。さらに史記天官書には「奎ヲ封豕ト曰フ。溝瀆トナス」とあって泥をかきまわす大隊の形に見ている。私はこの見かたに一も二もなく随喜している。歩天歌の画にも奎は猪頭の武人が描いてある。

さて大星雲である。李瑪竇の「経天談」(明末)に「東北一星芒独異」とあるのは星雲をいうらしい。1612年これを初めて発見したシモン・マリウスが「角ランプを透して見た燭」と書いたのは有名で、清の咸豊八年の「譚天」には、「……達宿ノ星気ハ図ノ如シ。目能クコレヲ見ル。人恒ニ誤リテ彗星ト謂ウ。万曆四十年、馬流会コレヲ測ル。燭光玻璃燈中ニ在ルゴトシト言エリ。善ク其状ヲ喻エタリト謂ウベシ」と記している。私の愛読する文章である。

江戸時代の天文通は、この種の天象を中国に倣って“白気”とよんでいた。橘南谿は寛政5年7月、その家で和泉堺の岩橋善兵衛の作った望遠鏡で天体を観測した記事(原漢文)に、「尾宿左鉤の白氣を観る。その実小星二十三相聚るなり。圭宿の白氣を見る。その実もまた白気なり」とある。

終りに書いておきたいのは大星雲の距離である。リチャード・アレンの「星名考」には、“星雲の女王”とよび、同じくマリウスの名文句も引いているが、「視直径は約3½、距離は地球より太陽に至る距離の more than thirty thousand times と推定されている」とある(1899)。同じく明治30年代に読んだ一戸直蔵博士の天文書には18万光年と記載されていて、鬼の首でも取ったように喜んだものである。現在の距離約230万光年、隔世の感ありどころではない。合わせてわれら人間のレーズンみたいな小さい目玉をつくづくたのもしいと感心させられるもする。

◇ 11月の日月惑星運行図 ◇

